

海況速報

平成 2 年度 第 4 号 (No.16)

平成 2 年 10 月 16 日

北海道立水産試験場

9 月下旬～10 月上旬の海況

〔日本海海域〕

表面水温は、道北海域ではほぼ 18～19℃台です。道央海域以南ではまだ 20℃台の高水温域がみられ、津軽海峡西口沖では 21～22℃台を示しています。中・下層では武蔵堆東端付近並びにそれから積丹半島沖にかけての海域に暖水塊がみられました。しかし、積丹半島周辺～江差にかけての沿岸域では低水温を示しているのが特徴的です。

昨年と比較すると、表面水温は、道南沿岸域ではほぼ昨年並ですが、道央～道北海域では昨年より高めとなっており、特に沖合域で顕著です。しかし、中・下層水温は、特に道央～道南沿岸域では昨年よりかなり低めとなっています。

なお、余市における沿岸水温も依然、平年より高め（10月上旬：+1.3℃）に推移しています。

〔オホーツク海海域〕

表面水温は沿岸暖流域では 17～18℃、沖合域では 14～15℃台を示しています。そしてこれらの間の混合域では、頓別沖や知床岬沖に 11～12℃台の冷水域がみられます。50m層では紋別北東沖に暖水の張り出しがみられますが、特に、枝幸沖や能取岬沖では沖合中冷水と顕著な潮境を形成しています。

昨年比では、表面水温は沿岸、沖合域とも昨年より高め（沖合域の方が顕著）ですが、中・下層水温は昨年より低めとなっています。

〔道東太平洋海域〕

表面水温は沿岸よりでは13～15℃です。中・下層では沿岸の暖水域の沖合を親潮水（100m：1℃台と低温）が南西下しており、北緯41度付近では東経144度～145度付近を南下しています。また、その東側では暖水の北上部分がみられています。

昨年比では、表面水温は沿岸域では昨年並ですが、沖合域で低めです。中・下層水温は沖合域を中心に全般にかなり低めとなっています。

〔道南太平洋海域〕

表面水温は北部では18～19℃ですが、南部では20℃台を示しており、7月下旬より高くなっています。これは津軽暖流の勢力が増したためと思われます。中・下層でも暖水域が日高沿岸域付近まで張り出しており、襟裳岬沖で親潮系水と潮境を形成しています。

昨年比では、表面水温は全般的には昨年より高めの所が多くなっています。中・下層水温も全般的に昨年よりかなり高めとなっています。

資 料 〔観測期間〕

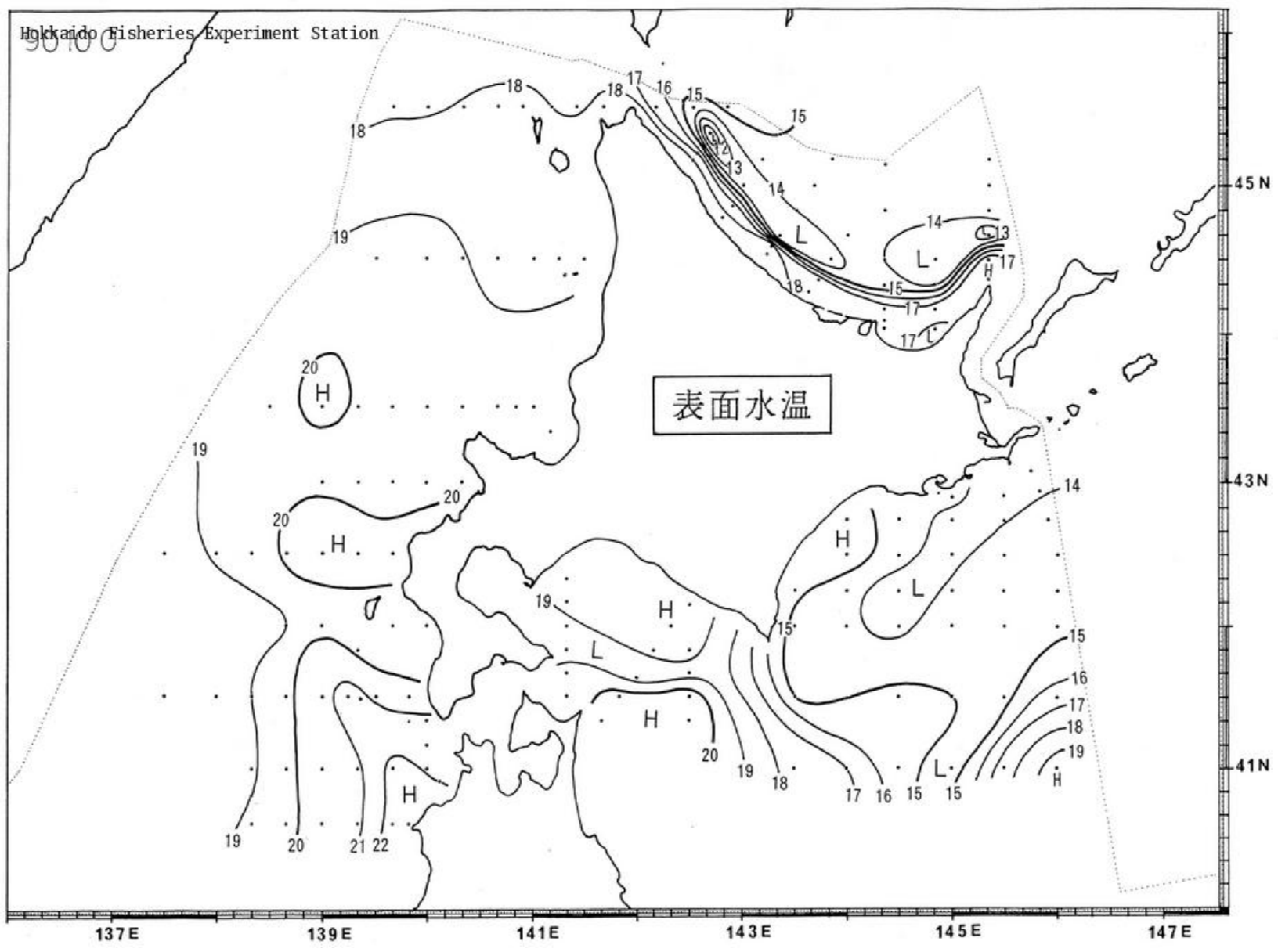
稚内水試（北洋丸）	10.4 - 10.5	（道北日本海海域）
稚内水試（北洋丸）	9.25 - 9.27	（オホーツク海域）
釧路水試（北辰丸）	9.28 - 10.5	（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	10.2 - 10.4	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	10.4 - 10.7	（道央～道南日本海海域）

以上の定期観測ほか、青森水試：東奥丸（10.5 - 10.6）の観測結果を使用させていただきました。

（中央水試 海洋部）

Hokkaido Fisheries Experiment Station

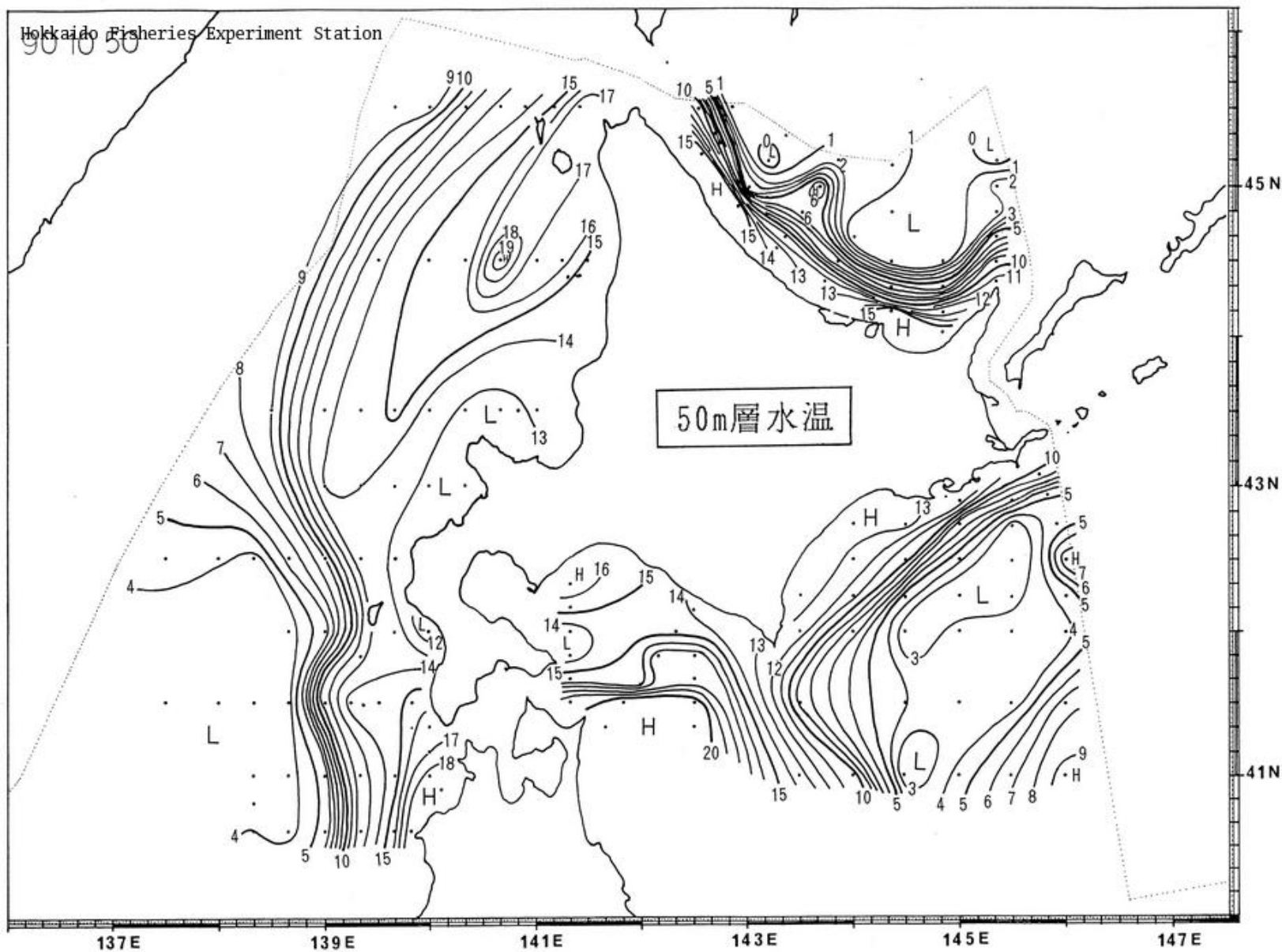
表面水温



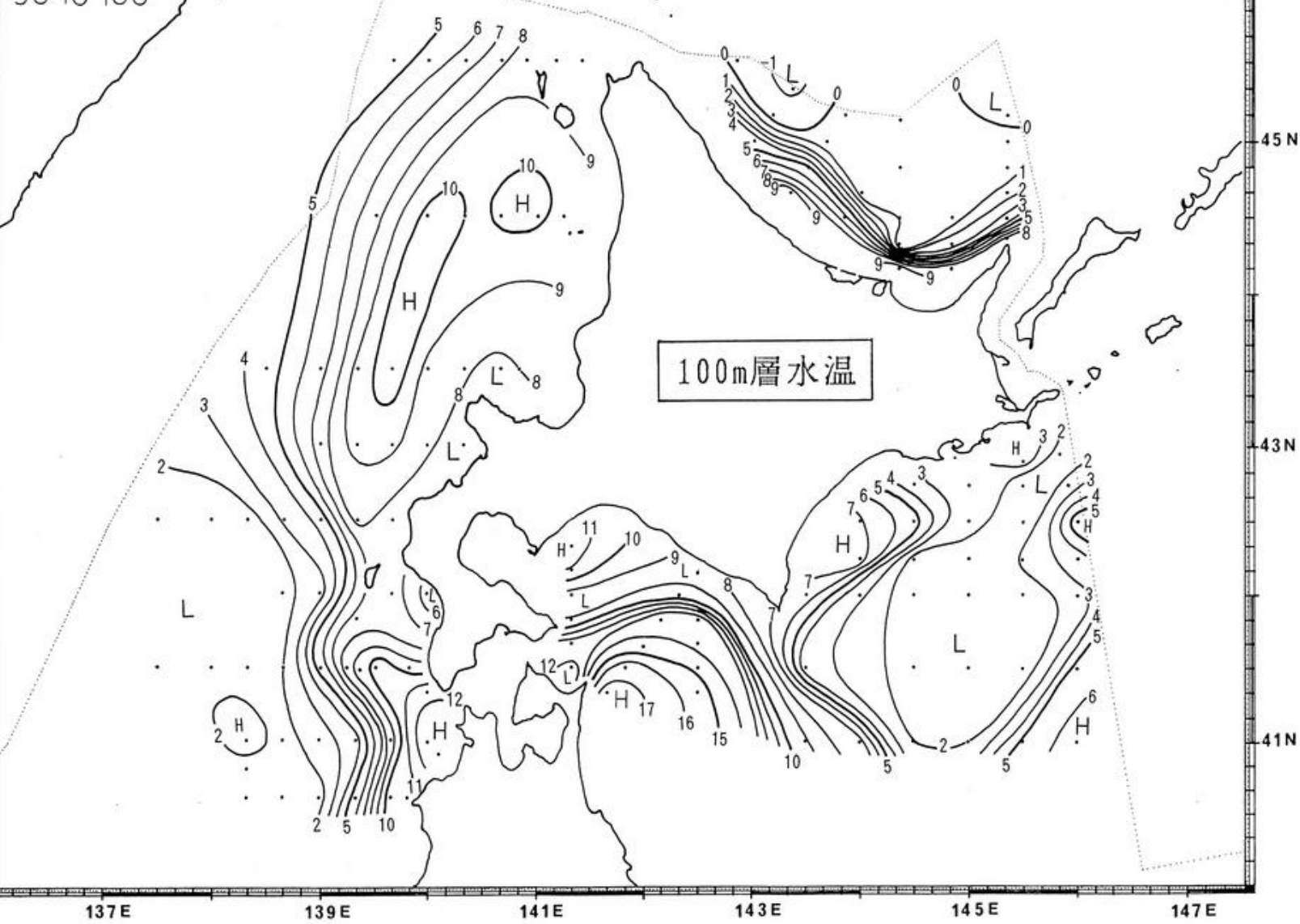
Hokkaido Fisheries Experiment Station

901050

50m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station



Hokkaido Fisheries Experiment Station

9010 200

200m層水温

